

クライマックスを見逃すな!!

2026

JAN.

Vol.23

商店街応援マガジン

まいど。



商店街は人生。



連載
編集長の独り言

巻頭カラー!!

愛と感動の商店街ストーリー

おやっさんとタカヒ

～前編～



おやっさんとタカヒ

登場人物紹介



タカヒ

母と年の離れた弟の3人家族。
母は持病のため長く働くことができず、タカヒが家計を支えている。
ある日、高収入の広告につられ闇バイトに申し込んでしまい、身柄を拘束されてしまう。
母と弟のため犯罪に手を染めるわけにはいかないと、命からがら闇バイトのアジトから逃げ出すも、家に帰る手段がなく路頭に迷っているところをおやっさんに救われる。



編集長

商店街のことが大好きな市役所の職員。
商店街の振興業務を担当しており、おやっさんたちの商店街にも支援をしている。

おやっさん

商店街で地域に愛される定食屋「キツネ食堂」を営む、とてもおおらかな人。過去に妻子を亡くしており、今は一人で食堂を切り盛りしている。
お得意メニューは息子が好きだった唐揚げ。
商店街の活動にも積極的に参加し、地域にとっては欠かせない存在。



あらすじ

ある札幌の冬の日、行き倒れの青年タカヒを救ったのは、地域に愛される定食屋の店主・おやっさんだった。
店での修行や商店街の活動を通じ、タカヒは地域と繋がる喜びを知っていく。
そんな中、思わぬ運命がタカヒに襲い掛かる……。一人の青年が大切な場所を守るため、葛藤し、成長していく姿を描く感動作。

これはとある商店街で
起きた愛と感動の物語



ここは商店街で人気の
定食屋さん。今日も常連客
で大にぎわい。



営業が終わりいつものように
片づけをしていると・・・



こんな時間に・・・
野良猫か？



き、きみ、大丈夫か!!



あ、あの・・・



飯食うか？

とりあえず
中に入っ

そういうことか。
少し待っててもらえるかい？

事情があつて
しばらく何も食べて
なくて、それで…

ありがとうございます。

どうぞ、
召し上がれ。

ジ
ウ
ウ

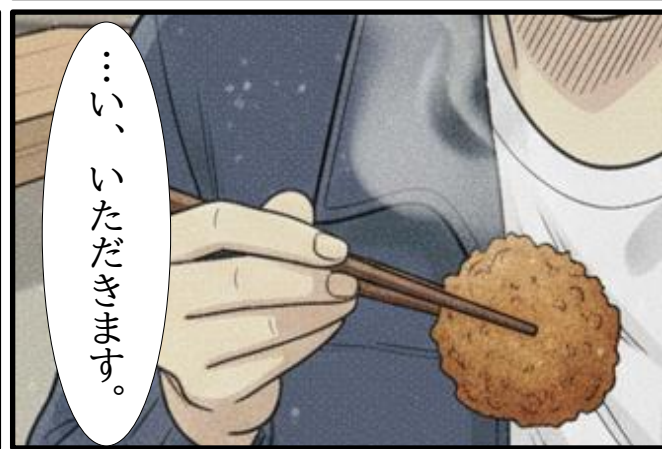
ウ
ウ
ウ



そんなこと気にしなくていい。
おなかいっぱい食べな。



えっ、でも…
俺、お金持ってなくて…



…い、いただきます。




は、はいっ！
とてもおいしいですっ！！


タカヒは目に涙を浮かべながら、
から揚げを夢中で食べ続けた。



どうだい？
おいしいかい？




あの、代金は必ず
お支払いしますので




お金のことは
気にしないでいい。

その代わりと言っちゃ
なんだけど、うちの店で
働いてもらえないだろうか？




働かせてもらえるん
ですか？

でも俺、飲食店で
働いたことなくて…



大丈夫。俺が一から
教えるから安心しな。



俺、タカヒって
言います！
よろしくお願いします！

おう！こちらこそ
よろしく頼むよ！

こうしてタカヒとおやつ
さんの二人三脚の日々が
始まった。

タカヒがおやつさんの
もとで働き始めてから、
初めての春を迎えたある日

— あれから
4 か月後 —

タカヒ、すまねエが
俺の代わりに商店街
の清掃活動に参加し
てきてくれないか？

わかりました。
おやつさんは
ゆっくり休んで
てください。

季節の変わり目
のせいかな、
あまり体調が良
くなくてな…

でも…商店街が
清掃活動って…？

あつ、あれは商店街
の人たちかな？



毎年、清掃活動をしているのか…!!



皆さん、昨年に続いて今年も清掃活動にご参加いただきありがとうございます。

これから今日の担当場所をお伝えします。



お店の近くにあるあの公園か



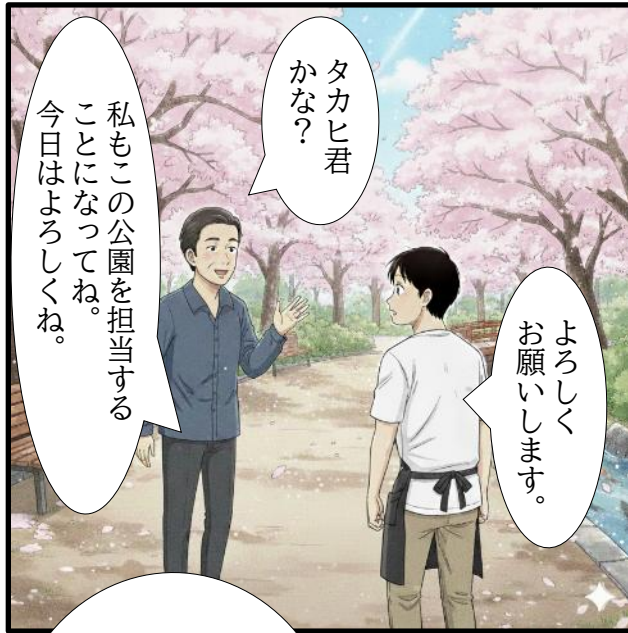
〇〇さんは△△通り担当で………タカヒさんは□□公園をお願いします。



それでは皆さんよろしくお願いします!!



ゴミ拾いを始めたタカヒ達。思いのほかゴミが落ちていたようで…



タカヒ君かな？

私もこの公園を担当することになってね。今日はよろしくね。

よろしく
お願いします。



いつ頃だったかな。
10年前かな？

実はね、この清掃活動はおやっさんの発案で始めたものなんだよ。



お疲れ様です。
意外とゴミって落ちて
るもんですね。

そうでしょ。
私もこの活動を
始める前はゴミなんて
そんなに落ちてない
と思ってたんだよ。

ちなみにこの活動って
いつから始めたんですか？



この清掃活動は、おやっさんが
商売以外のことで地域に貢献し
たいという想いから始まったと
その日、タカヒは知った。

さらに、この活動を始めてから
街をきれいにするという意識が
地域の人にも広がり、今では欠
かすことができない活動になっ
ていることを実感したタカヒで
あった。

今日はいろいろと
ありがとうございました。

また来年も絶対
参加します。

来年もよろしくね。

タカヒ、初めての
清掃活動は
どうだった？

すごいゴミ
で…

商店街の人たちが地域を支えてくれていることに感銘を受けたタカヒは、おやっさんに今日あったことを勢いよく話すのであった。

—さらに2か月後—

ある初夏の日

はい、
わかりました。

商店街主催の夏祭りに
参加するからその準備
を手伝ってくれないか。

夏祭りに向けて準備を
進めるタカヒ達

途中おやっさんが暑さに
やられてバテ気味だったが、
何とか無事に準備は完了し…

そして迎えた夏祭り当日

どどどおーん









手術は長丁場となり、その間
おやっさんの無事を祈り続ける
タカヒ

しかし…



嘘だーっ！
そ、そんなっ、
おやっさんっ!!

おやっさんの訃報を聞き、
その場に泣き崩れるタカヒ



手術室から出てきた医者から
告げられた言葉はあまりにも
残酷な事実であった。

最善を尽くしましたが、
残念ながら…

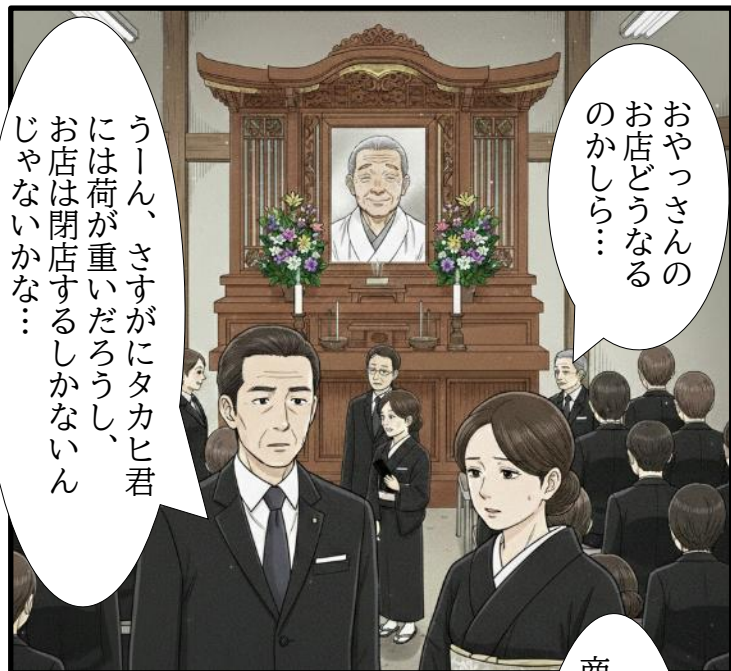


葬儀には商店街の関係者、
常連客、多くの方が参列した。





もうあの唐揚げは二度と
食べられないのかしらね…



おやっさんのお店どうなるのかしら…

うーん、さすがにタカヒ君には荷が重いだろうし、
お店は閉店するしかないんじゃないかな…



葬儀が終わり、厨房で
呆然と立ち尽くすタカヒ

おやっさん、
俺は一体どうすれば…



おやっさんがいなくなったら
商店街活動もどうなることやら…



タカヒ、
みんなの笑顔を
守ってくれ



おやっさん、見ててください!!
俺がこの店を、みんなの笑顔を守り抜いてみせます!!

そうだ!
俺はみんなの笑顔のために
頑張るって決めたんだ!



To be Continued...

※本マンガのストーリーは完全オリジナルですが、イラストは生成AIに作ってもらいました。

編集長の独り言 #23

1人、店に残されたタカヒ。悲しみに暮れる暇もなく、店を再開するも、一人で切り盛りする厨房は想像を絶する戦場だった…。

「クソッ、おやっさんはこんなことを1人でやってたのかよ…!」

そんな時、目の前に現れたのは、市役所の編集長という名の「おせっかい」と、おやっさんが長年この街で育んできた信頼という名の「追い風」だった。果たしてタカヒの未来に光は射すのか…。

次回、『タカヒ、白エプロンに誓う。』の巻



…おやっさんの唐揚げが、ちょっと焦げそうな予感である。

後半へ、続く。

